

2012 年 9 月 28 日 インド政府訪日団 来訪

2012 年 9 月 28 日、インド科学技術省 Dr. Inder Jit Singh 率いるインド政府訪問団（インド政府関係者 25 名及び在日インド大使館職員 2 名）が、医科学研究所に来所されました。

訪問者

インド科学技術省 Dr. Inder Jit Singh

ほかインド政府関係者 25 名

在日インド大使館職員 2 名



2011 年 9 月 6 日 中国衛生部訪日団 来訪

2011 年 9 月 6 日、中国衛生部より、王立基 衛生部国際合作司副司長率いる訪日団 4 名が、医科学研究所に来所され、辻浩一郎先生による制度の説明を受けられ、懇談をされました。

訪問者

王立基 衛生部国際合作司副司長

馮勇 衛生部国際合作司アジア・アフリカ処処長

王蓓 衛生部国際交流・合作センター外聯一部副部長

比留間聡 日中医学協会事務局長



2011 年 8 月 23 日 中国広西壮族自治区視察団 来訪

2011 年 8 月 23 日、中国広西壮族自治区より、葛蓮英 広西腫瘍医院副院長をはじめとする視察団 4 名が、医科学研究所に來所され、岩本愛吉教授らと懇談をされました。

訪問者

葛蓮英 広西腫瘍医院 副院長/教授

陳赤 広西壮族自治区衛生庁エイズ防治処 処長/医師

林玫 広西壮族自治区疾病予防制御センター 副主任

陳怡 広西壮族自治区疾病予防制御センター 医師



2010 年 10 月 15 日 スウェーデン カロリンスカ研究所代表团 来訪

2010 年 10 月 15 日、スウェーデンより Harriet Wallberg-Henriksson カロリンスカ研究所長率いる 6 名、スウェーデン大使館より 2 名、合計 8 名の代表团が医科学研究所に来所されました。

一行は所長室にて、互いの研究所の概要説明のあと、相互に意見交換を行いました。所長室での懇談後、バイオバンク・ジャパン、質量分析室、スパコン室などを見学されました。

訪問者

Prof. Harriet Wallberg-Henriksson (President, Karolinska Institute)

Assoc. Prof. Clara Hellner Gumpert (Dean of Doctoral Education, Karolinska Institute)

Prof. Martin Ingvar (Dean of Research, Karolinska Institute)

Prof. Tomas Hökfelt

Assoc. Prof. Fredrik Ullén (Neuroscience)

Mr. Peter Bramberg (Head of Life Sciences, Invest Sweden)

Prof. Anders Karlsson (Science & Technology Counsellor, Sweden Embassy)

Ms. Setsuko Hashimoto (Program Manager, Science & Technology Office,
Sweden Embassy)



2010 年 9 月 7 日 中国青年代表团 医療衛生分団 来訪

2010 年 9 月 7 日（火）午後、「21 世紀東アジア青少年大交流計画」の一環として来日した「中国青年代表团 医療衛生分団」が医科学研究所を訪問された。代表团は約 1 週間の視察旅行を目的として来日されており、医科学研究所が一ヶ所目の視察場所であった。訪問者は、中国衛生部関係者、医師、看護師など 35 名で、全員が 1970～1985 年生まれの将来を担う若い世代であった。

一行にはまずバイオバンクを見学して頂き、その後附属病院 8 階会議室にて井上純一郎副所長、今井浩三附属病院長、アジア感染症研究拠点代表の岩本愛吉教授よりそれぞれ本研究所、附属病院、アジア感染症研究拠点についての紹介がされた。その後、附属病院から若手の医師 3 名と看護師 2 名、基礎研究分野より中国人研究者 1 名にパネリストとして参加して頂き、質疑応答形式の意見交換会を行った。代表团からは患者さんのケア、看護師の養成、研究費の確保、病院経営等多岐にわたる質問が数多く出され、終了予定時刻を延長する非常に活発な意見交換会となった。

全体で約 3 時間の訪問であったが、日中双方から大変貴重で意義のある交流ができたという感想が得られた。代表团団長・張副主席から最後にお話があったように、今後益々相互に訪問する機会が増え、日中間の親交がさらに深められることを、期待している。

参考 URL(外務省 HP) : [こちら](#)



2010 年 6 月 8 日 シンガポール保健省視察団 来訪

2010 年 6 月 8 日（火）午後、Roy Quek 保健政策事務次官他 6 名のシンガポール保健省視察団が医科学研究所を訪問され、本所附属病院副院長の東條有伸教授及び本所副所長の井上純一郎教授が所を代表して対応した。東條教授は主に本所附属病院が先駆けとなっていたトランスレーショナルリサーチの例を紹介され、その後病院内クリーンルーム（無菌室）の見学ツアーを行った。続いて、井上純一郎教授が自身の研究内容についての簡単な紹介と基礎研究－臨床応用研究間の研究者の交流の現状についてお話をされた。視察団の方々は特にトランスレーショナルリサーチ（橋渡し研究）の推進方法及び基礎研究と臨床応用研究の研究者間の交流及び資金の分配方法等について関心があり、それらについて多くの質問がなされた。訪問時間は 90 分であったが、予定時間を過ぎても視察団からの質問が尽きないほど、活発で有意義な国際交流の機会となった。



2010 年 3 月 8 日 フランス リヨン高等師範大学 来訪

2010 年 3 月 8 日、フランス リヨン高等師範大学 (École Normale Supérieure de Lyon) より、国際連携担当の Jan Matas 先生が医科学研究所に来所され、清木元治所長、山本教授、渡邊 (俊) 教授、Whittier 特任教授と懇談をされました。

訪問者：

Dr. Jan Matas(リヨン高等師範大学国際連携担当)

~~~~~

## 2010 年 3 月 第 2 回 GCOE シンポジウムを開催

2010 年 3 月 2 日 (月)、医科学研究所にて、第 2 回 GCOE シンポジウムを開催しました。

プログラムの詳細はこちらです

[第 2 回 GCOE シンポジウム詳細](#)

参加機関

米国立衛生研究所

米ハーバード大学医学部

仏パスツール研究所

大阪大学

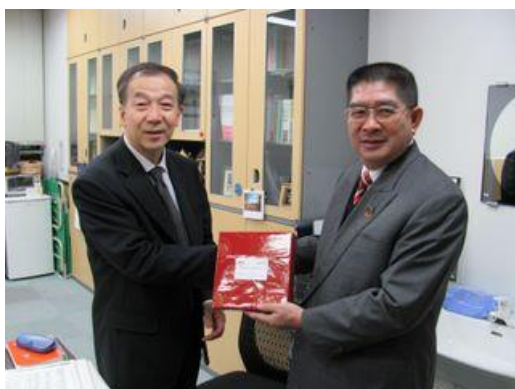
東京大学医科学研究所 (IMSUT)



## 2009 年 12 月 14 日 マレーシア科学技術革新大臣ら 来訪

2009 年 12 月 14 日（月）午後、マレーシア科学技術革新大臣 Maximus Johnity Ongkili 氏ほか 4 名のマレーシア政府視察団が医科学研究所中村祐輔教授研究室（ヒトゲノム解析センター・ゲノムシーケンス解析分野）を訪問されました。

今回の訪問は、中村教授の管理されている世界最大の DNA・血清試料保管庫（バイオバンク・ジャパン）の見学が主な目的であった。中村教授は「オーダーメイド医療実現化プロジェクト」のプロジェクトリーダーであり、これらの試料を用いて遺伝子の個人差と様々な疾病や薬剤感受性の関係を明らかにし、日本の医療改革につなげていくことを目指している。大臣らは中村教授によるバイオバンクの説明に熱心に聞き入り、また、当該研究室出身の研究者が関節リウマチの原因に関する研究で大きな成果を挙げていることにも大変関心を示されました。そのほか、中村研究室にマレーシアからの留学生が 2 名在籍していることを大変喜ばれ、直接彼女たちとお話になった。今後このような研究者間の国際交流がより一層活発化、拡大していくことを期待しています。



## 2009 年 11 月 4 日 医科学研究所附属病院 秋のピアノコンサート開催

日時：2009 年 11 月 4 日 16:30～17:30

ピアノ独奏：クリスティーナ・サンジュローヴァ  
(Kristina Sandulova)



2009 年 11 月 4 日、クリスティーナ・サンジュローヴァ氏（オランダ在住ピアニスト）をお招きし、トミーホール（医科学研究所病院棟 8 階）にて、ピアノコンサートを開催しました。

クリスティーナさんのご好意により実現した入院患者の皆様とそのご家族のためのボランティアコンサートでした。クリスティーナさんはブルガリアのご出身ですが現在はオランダで活動されており、このコンサートは「日本オランダ年 2008-2009」の公式行事として認定されました。

### 曲目

1. フランツ・シューベルト ピアノ・ソナタ 第 13 番 イ長調
2. マックス・レーガー 色とりどりの葉
3. フレデリック・ショパン マズルカ イ短調
4. フレデリック・ショパン ピアノ・ソナタ 第 3 番 ロ短調（第 2、3 楽章のみ）

ポスターは[こちら](#)



## **2009 年 10 月 30 日   オーストラリア   ボンド大学学長ら   来訪**

2009 年 10 月 30 日（金）、オーストラリア   ボンド大学・Robert Stable 学長率いる 4 名の訪問団が医科学研究所を訪問されました。一行は、清野宏副所長と懇談された後、中内啓光教授を訪問し、研究室の見学をされました。

訪問者

Prof. Robert Stable(ボンド大学学長)

Mr. Brett Walker(ボンド大学入学事務局)

Ms. Odette Tuitama-Roberts(ボンド大学入学事務局)

Mr. Kenneth Ho（オーストラリア大使館）



## **2009 年 3 月 18 日   フランス   リヨン高等師範大学学長ら   来訪**

2009 年 3 月 18 日(水)、フランスの一流教育機関であるリヨン高等師範大学(ENS Lyon)の Jacques Samarut 学長が本学医科研を訪問された。今回の来日は本学の生命科学・医学関連研究者との学術連携推進を目的としており、医科研訪問翌日の 19 日には小宮山総長を訪問し、大学間国際学術交流協定を締結している。

Samarut 学長にとって、医科研は 1984 年に 4 ヶ月間、前所長である山本雅教授（当時は准教授）と同じ研究室で研究活動をされていた馴染みのある研究機関である。医科研訪問当日は、GCOE セミナーが開催され、ご自身の研究テーマである核内甲状腺ホルモン受容体に関する講演をされ、教員・ポスドク・院生と活発な質疑応答が交わされた。引き続き、東大生命科学・医学系教員/学生相互交換プログラム計画について当研究所執行部及び教員との会議が開催された。会議では、副所長清野教授司会のもとに、Samarut 学長、本所所長清木教授のほか、リヨン高等師範大学国際連携室長 Jan Matas 博士、東大分子細胞生物学研究所加藤茂明教授、東大大学院新領域創成科学研究科メディカルゲノム専攻菅野純夫教授、本所山本雅教授及び国際連携室員が出席し、当計画立案に向けて議論された。予定の時間を大幅に過ぎるほど非常に活発な意見交換がなされ、両大学間の学術交流推進案がまとめられた。日仏間の今後の積極的な交流が期待される。



## **2009 年 2 月 17 日 第 3 回感染症国際シンポジウムを開催**

2009 年 2 月 17 日（火）、医科学研究所講堂に於いて、第 3 回感染症国際シンポジウムを開催しました。

参加機関

イスラエルヘブライ大学

仏パスツール研究所

南アフリカケープタウン大学

米イエール大学

蘭アムステルダム大学

国立国際医療センター

京都大学

千葉大学

北海道大学

東京大学



## **2009 年 2 月 10 日 第 1 回 GCOE シンポジウムを開催**

2009 年 2 月 10 日（火）、医科学研究所講堂にて、第 1 回 GCOE シンポジウムを開催しました。

プログラムの詳細は[こちらから](#)

参加機関

米聖ジュード小児研究病院

米スクリプス研究所

米ユタ大学

フランス国立遺伝子センター

東京大学医科学研究所（IMSUT）



## **2009 年 2 月 3 日 ドイツ連邦政府厚生省視察団 来訪**

2009 年 2 月 3 日（火）午後、ドイツ連邦政府厚生省政務次官 Ms. Marion Caspers-Merk 以下 3 名の厚生省関係者及び在日ドイツ大使館関係者 3 名、計 7 名が医科学研究所に視察に訪れた。

まずは近代医科学記念館にて近代医科学記念館にて清野副所長が本所の概要、研究組織、ドイツとの関係等について紹介した。本所とドイツの深い関係、そして両者の関係の深さを表す展示品の数々に訪問者の方々は大変感銘を受けた様子だった。偶然にも、ドイツのロベルト・コッホ研究所は政務次官のオフィスからほんの 300 メートルの所にあり、しかもご自身の管轄だということであった。今回は、本所の研究活動の中でも特にオーダーメイド医療及びがんペプチドワクチン療法に興味を持っておられるということで、その分野で先駆者的研究をされている中村祐輔教授研究室への訪問が次に予定された。当日は穏やかな天候に恵まれたため、記念館から中村研究室へ向かう途中、日本に特徴的な考え方を見ることができる動物慰霊碑にも立ち寄ることができた。

中村教授研究室では、Caspers-Merk 政務次官は大変熱心にお話を聞かれ、非常に深い質問を数多くされた。後半のディスカッションではドイツの科学者との交流の状況を質問され、今後日独科学者間の交流が一層深まることを期待したいと述べられた。中村教授はそれに対し、同じ分野で活躍するドイツ人科学者を数多く知っており、今後積極的に彼らと交流していきたいと述べた。最後にバイオバンクジャパンをはじめとする中村研究室の実験施設見学ツアーを行い、2 時間に及ぶ今回の訪問は終了となった。

今回の訪問は大変有意義且つ満足のいくものであったとお礼の言葉と、今後の日独相互交流の拡大を期待するとのお話を頂いた。我々にとっても大変貴重な機会であり、今後の日独国際交流の重要なきっかけとなったと感じている。



## 2008 年 12 月 第 12 回医科学研究所留学生・外国人研究者のための懇親会開催

12 月 17 日（水）、医科学研究所主催の「留学生・外国人研究者のための懇親会」が 4 年ぶりに開催された。16 ヶ国 42 名の留学生・外国人研究者及び所長以下関係職員 15 名の計 57 名が出席した。



懇親会は清野宏教授（国際交流委員長）の開会の辞、清木元治所長の挨拶と乾杯により始まり、途中留学生・外国人研究者一人一人による自己紹介をはさんだ 2 時間のイタリアン立食パーティとなった。今回は過去に比べ参加人数が多く、大変有意義な会となった。研究室の異なる外国人同士、普段ほとんど接点がないため、このような機会を喜ぶ声が多数寄せられた。

2 時間はあっという間に過ぎ、会は留学生代表 Ismael Gritli(スウェーデン出身)さんによる閉会の辞と参加者全員の記念撮影で幕を閉じた。教員ではなく留学生による閉会の辞というのは、国際交流という観点から提案された初の試みであったが、Ismael さんは各国の言葉で「乾杯」をするなど、全員参加型の工夫に富んだスピーチを披露し、会場に一体感を生み出した。帰り際には、楽しいひとときに名残惜しさを感じつつメールアドレスを交換する留学生らの姿も見られ、今回の懇親会が本研究所で研究活動を行う外国人同士のネットワーク構築に貢献できたことを感じた。



## **2008 年 6 月 24 日 韓国淑明女子大薬学部学生ら 来訪**

2008 年 6 月 24 日（火）、韓国淑明女子大薬学部より、学生が医科学研究所に訪問されました。

一行は、システム生命医科学技術開発共同研究ユニットを訪問し、学生や後藤典子特任准教授へのインタビューを行いました。



## **2008 年 5 月 13 日 フランスより視察団 来訪**

2008 年 5 月 3 日、フランスの国立癌研究所より Fabien Calvo 教授、国立医学研究機構より Stephane Roy 教授、及び在日フランス大使館より Yves Miaux 医学博士が医科学研究所に来訪されました。

訪問者

Fabien Calvo 教授（フランス国立癌研究所）

Stephane Roy 教授（フランス国立医学研究機構）

Yves Miaux 医学博士（フランス大使館 科学技術部）

~~~~~

2008 年 4 月 23 日 スロベニアより視察団 来訪

2008 年 4 月 23 日、スロベニアより 3 名、関係各所より 4 名の合計 7 名が医科学研究所に来訪されました。

一行は、所長室にて清木元治所長、山下直秀病院長と懇談された後、山下病院長の案内により病院の視察を行いました。その後、中村祐輔教授、中内啓光教授によるそれぞれの研究内容の説明を受けられました。

訪問者

スロヴェニア共和国首相パートナー

国家儀典局長 ほか